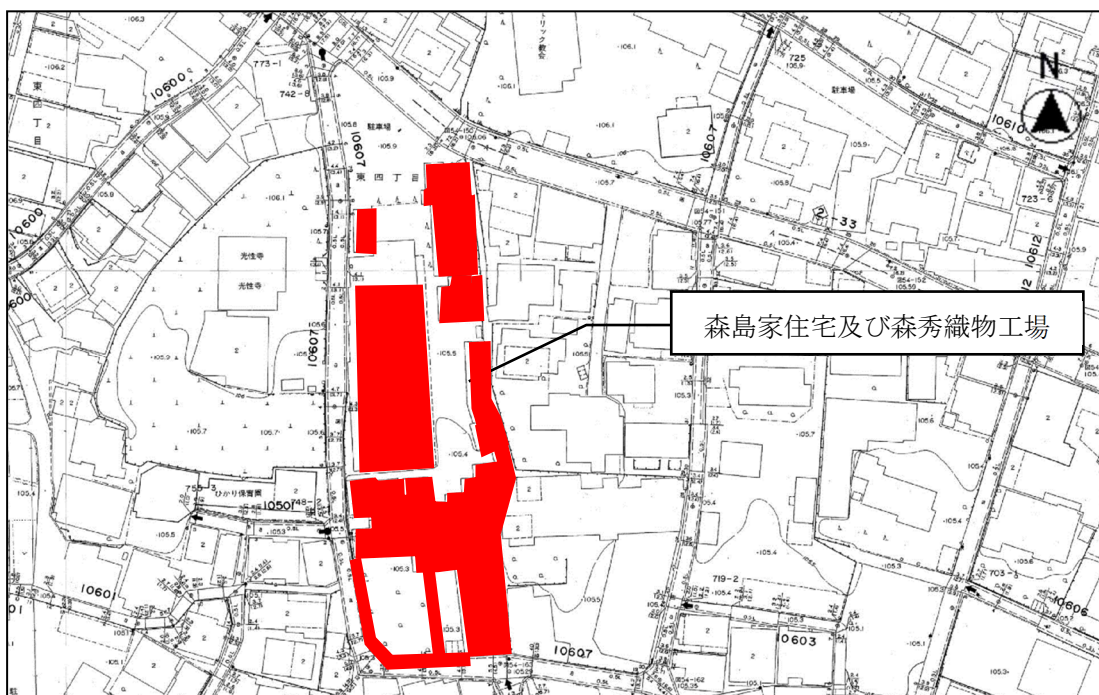
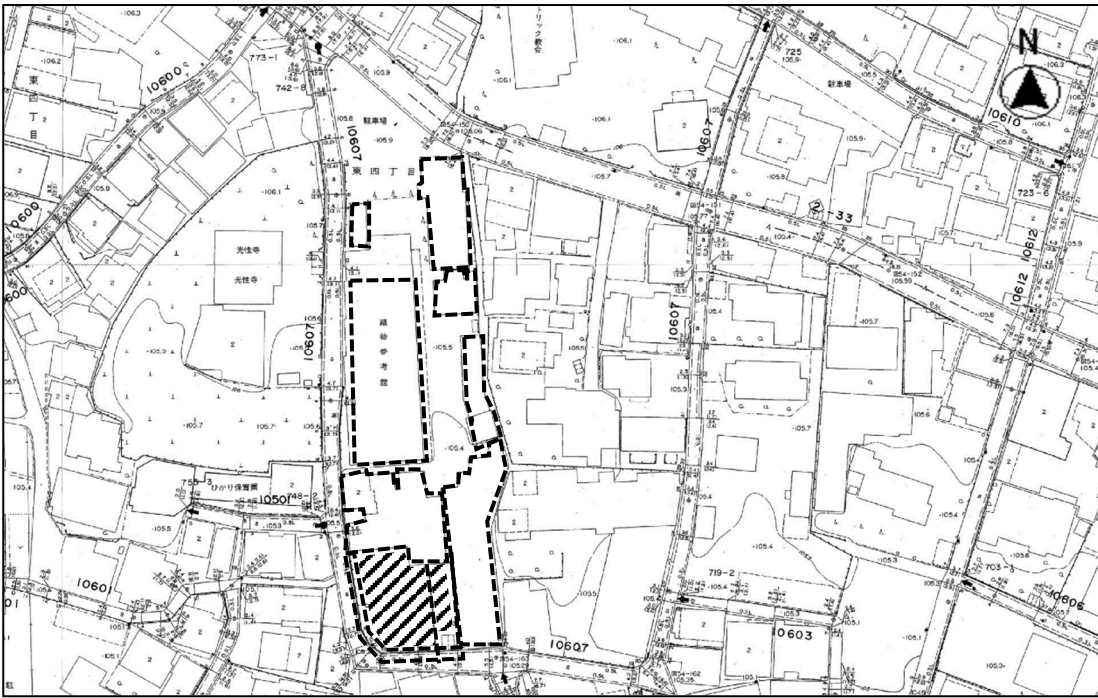


指定番号 14 森島家住宅及び森秀織物工場

所在地	東 4 丁目 2 番 24 号
建築年代	大正 13 年頃：森島家住宅主屋、住宅東蔵、住宅門、住宅内塀、森秀織物工場、旧現場事務所、旧物置、旧寄宿舍(2 棟)、旧撚糸場、旧土蔵、旧整経場、旧釜場 昭和 21 年頃：旧工場 昭和 26 年頃：住宅西蔵
建築概要	森島家住宅：木造平屋建て 森秀織物工場：木造平屋建て
特徴等	森秀織物工場は、高級織物であるお召し専門の機屋で、初代森島秀が森島俊篤（森俊織物）から分家して現在地に工場を構えたとされている。敷地内には、整経場、釜場（染色場）、撚糸場、寄宿舍など織物業の一連の施設が現存している。現在も操業しており、お召しの技術を生かした文楽人形の衣装や歌舞伎の装束などを織り上げているほか、織物参考館“紫”として、資料展示や染色体験等を行っている。 森島家住宅は、森秀織物の初代森島秀が会社の事務所兼居宅として建てられた和風住宅で、主屋とそれに接続する事務所と応接間、2 棟の蔵があるほか、表門、表門と道路沿いに敷設された板塀、コンクリート塀がある。現在は、建物北側に織物参考館“紫”があるため、工場の奥に主屋があるように感じられるが、本来は表門が入り口であった。現在も森秀織物と一体となって構成されており、桐生織物が好景気を迎え始める大正末期から続く大規模な織物会社の居宅例として貴重な建物である。
備考	国登録有形文化財（平成 18 年 8 月 3 日） 日本遺産（平成 27 年 4 月 24 日）



配置図



歴史的風致形成建造物指定範囲



指定対象外範囲



旧鋸屋根工場（外観）



旧鋸屋根工場（内観）



土塀及び正面玄関



表門